

録に示す。

質問項目は全員を対象としたものの他に、喫煙している者（喫煙者）、かつて喫煙したが現在はしない者（断煙者）、喫煙しない者（無煙者）を対象にしたものを設け、三者それぞれの意見を聞き、その相違について検討した。

質問の順序に従って回答結果の大要とともに、性、年齢、喫煙の様態との間の関連を調べた結果も記し考察した。

Ⅲ 結 果

1. 全員への質問に対する回答

1) 一般的事項に関する質問に対する回答
回答結果を表1に示す。

(1) 男女別：有効回答数は男子1,937人、女子658人、合計で2,595人であった。この数は全学生・院生の61.4%にあたる。

(2) 年齢別：年齢は6段階に分けて調査した。このうち18-19歳が61.0%を占めた。表1に示すように、24~25歳、26~30歳、31歳以上の回答者数はきわめて少数であるので、考察から除外した。

(3) 学部別：学部および大学院の本年4月の新学期当初における現員は、外国語学部1,297人、法学部1,387人、経済情報学部1,450人、大学院93人の4,227人であった。これに基づく各学部の回答率は、外国語学部60.0%、法学部65.9%、経済情報学部60.8%、大学院23.7%であった。

(4) 喫煙の有無：現在喫煙している者を喫煙者（903人、34.8%）、かつてしていたがやめた者を断煙者（282人、10.9%）、喫煙をまったくしていない者を無煙者（1,409人、54.3%）と分類した。

(5) 家族の喫煙状況と喫煙との関係：「家族の

中にもまったく喫煙者のいない」学生数は788人で、そのうち本人も喫煙しない無煙学生数は475人（60.3%）、喫煙学生数は216人（27.4%）であった。一方、「家族のなかの誰かが喫煙する」学生数は1,807人で本人も喫煙する喫煙学生数は687人（38.0%）で、喫煙しない無煙学生数は934人（51.7%）であった。

2) 喫煙と健康に関する質問に対する回答

結果を表2に示す。この項目では喫煙と健康に関する知識を調べるとともに、喫煙に関する意見も「はい」、「いいえ」の二者択一方式で問い、その回答に対して、性別、年齢別、喫煙の様態（喫煙、断煙、無煙）別をカイ2乗検定を用いて比較した。有意水準はすべて0.05とした。

(1) ニコチンの依存性：知っている者の割合は91.3%であった。

(2) タールの発癌性：知っている者の割合は86.2%であった。年齢別（18-19歳、20-21歳、22-23歳）で有意差があった。

(3) 呼吸器系消化器系への影響：92.6%が知っていた。年齢別（18-19歳、20-21歳、22-23歳）で有意差があった。

(4) 長期の喫煙と肺気腫：80.1%が知っていた。喫煙の様態別で有意差があった。

(5) 長期の喫煙と循環器系の障害：知っている者の割合は77.0%であった。性別で有意差があった。また喫煙の様態別でも有意差があった。

(6) 女性における喫煙の有害性：87.8%が知っていた。性別で有意差があった。また喫煙の様態別でも有意差があった。

(7) 喫煙率を下げるべきか：80.6%が賛成した。性別で有意差があった。また喫煙の様態別で

表1 回答者全員に関する属性 (n=2,595)

1) あなたの性別は？	1. 男：1,937(74.6)*	2. 女：658(25.4)
2) あなたの年齢は？	1. 18~19歳：1,583(61.0)	2. 20~21歳：823(31.7)
	3. 22~23歳：159(6.1)	4. 24~25歳：16(0.0)
	5. 26~30歳：6(0.0)	6. 31歳以上：8(0.0)
3) あなたの所属は？	1. 外国語学部：778	2. 法学部：914
	3. 経済情報学部：881	4. 大学院：22
4) 喫煙の有無は？	1. する：903(34.8)	2. したことがあるがやめた：282(10.9)
	3. しない：1,409(54.3)	
5) 家族の喫煙状況は？	1. 父母がする：1,430(55.1)	2. 兄弟がする：459(17.7)
	3. 祖父母がする：148(5.7)	4. その他がする：124(4.8)
	5. 誰もしない：788(30.4)	

* () 内は割合 (%) を示す。

表2 喫煙と健康に関する質問に対する回答(性別、年齢別、喫煙・断煙・無煙別)

喫煙と健康に関する質問	全体 (n=2,595)	男性 (n=1,937)	女性 (n=658)	18-19歳 (n=1,583)	20-21歳 (n=823)	22-23歳 (n=159)	喫煙 (n=903)	断煙 (n=282)	無煙 (1,409)
1) 煙草に含まれているニコチンは、依存性(習慣性)をもたらす麻薬作用のあることを知っていますか?	2,369 (91.3) #	1,767 (91.2)	602 (91.5)	1,080 (90.8)	534 (92.0)	100 (91.8)	828 (40.8)	253 (73.0)	1,287 (82.3)
2) 煙草が燃えて出来るタールには発癌性の物質が含まれることを知っていますか?	2,236 (86.2)	1,672 (86.3)	564 (85.7)	1,067* (82.8)	521* (91.5)	106* (91.8)	792 (87.7)	241 (70.6)	1,202 (83.1)
3) 長期間(数十年)の喫煙には呼吸器系や消化器系の病になる危険性のあることを知っていますか?	2,403 (92.6)	1,792 (92.5)	611 (92.6)	1,021* (64.5)	474* (57.6)	94* (59.1)	845 (93.6)	253 (89.7)	1,304 (92.5)
4) 長期間(数十年)の喫煙には肺気腫になる危険性のあることを知っていますか?	2,079 (80.1)	1,564 (80.7)	515 (78.3)	973 (61.5)	445 (54.1)	97 (61.0)	764* (84.6)	226* (80.1)	1,088* (77.2)
5) 長期間(数十年)の喫煙には狭心症や動脈瘤のような循環器系の病気になる危険性のあることを知っていますか?	1,997 (77.0)	1,535* (79.2)	392* (59.6)	824 (52.1)	325 (39.5)	68 (42.8)	720* (79.7)	217* (77.0)	1,059* (75.2)
6) 女性が煙草を吸うとガラガラ声になること、妊婦が吸うと流産や低体重児出産の率が高くなることを知っていますか?	2,279 (87.8)	1,668* (86.1)	611* (92.9)	1,532 (96.8)	803 (97.6)	156 (98.1)	807* (89.4)	249* (88.3)	1,233* (86.8)
7) 喫煙率は日本で高くなっています(米英の喫煙率28%、日本の喫煙率52%)。喫煙率をもっと下げるべきだと思いませんか?	2,091 (80.6)	1,519* (78.1)	578* (87.8)	1,089 (68.8)	513 (62.3)	100 (62.9)	599* (66.3)	234* (83.0)	1,257* (89.2)
8) 喫煙の人体に与える影響について、国や有識者は国民にもっと詳しいことを知らせるべきだと思いますか?	2,295 (88.4)	1,675* (86.5)	620* (94.2)	1,156 (73.0)	639 (77.6)	119 (74.8)	741* (82.1)	248* (87.9)	1,305* (92.6)

()内は割合(%)を示す。

* 性別、年齢別(18-19歳, 20-21歳, 22-23歳), 喫煙状態別で統計的(カイ2乗検定)に有意(5%)な違いがあることを示す。

も有意差があった。

(8) 国民に喫煙の害を知らせるべきか：88.4%が賛成した。性別で有意差があった。また喫煙の様態別でも有意差があった。

3) 喫煙と大学(社会)生活に関する質問に対する回答

結果を表3に示す。この項目では知識よりも主に喫煙と大学(社会)生活についての意見を「はい」、「いいえ」の二者択一方式で調査した。その回答に対して、性別、年齢別、喫煙の様態(喫煙、断煙、無煙)別で比較した。なお、質問項目の1, 2, 3については、回答者にとって質問の意味が分かりにくく把握しにくい表現であったと判断されたので、考察から除外した。

(1) 喫煙するしないは個人の判断にまかせ、とやかく言うべきでないか：58.7%が賛成であった。性別で有意差があった。年齢別(18-19歳, 20-21歳, 22-23歳)で有意差があった。また喫煙の様態別でも有意差があった。

(2) 大学構内から煙草の自販機を撤去すべきか：47.4%が賛成した。性別で有意差があった。年齢別(18-19歳, 20-21歳, 22-23歳)で有意差があった。また喫煙の様態別でも有意差があった。

(3) 20歳未満の未成年者の喫煙は法律で禁止されていることを知っているか：97.1%が知っていると答えた。性別で有意差があった。

(4) 先生や親は生徒や子供のそばで喫煙すべきでないか：賛成は66.4%であった。性別で有意差があった。年齢別(18-19歳, 20-21歳, 22-23歳)で有意差があった。また喫煙の様態別でも有意差があった。

(5) 無煙者である妻の肺癌発生率は、夫が喫煙者の場合は夫が無煙者の場合より2倍近く高くなることを知っているか：74.5%が知っていると答えた。年齢別(18-19歳, 20-21歳, 22-23歳)で有意差があった。

2. 喫煙者と断煙者への質問に対する回答 (n = 1, 185)

結果を表4に示す。

1) 喫煙開始年齢：喫煙開始年齢は17歳未満が最も多く44.0%，次いで17-18歳が26.7%，その次が19-20歳で18.8%であった。

2) 喫煙の動機：半数(49.9%)が「ただ何となく」という回答を選んだ。25.6%は「友人先輩

表3 喫煙と大学(社会)生活に関する質問に対する回答(性別、年齢別、喫煙・断煙・無煙別)

	全体	男性	女性	18-19歳	20-21歳	22-23歳	喫煙	断煙	無煙
1) あまり禁煙禁煙と言わず、喫煙は個人のみをまかせ、喫煙に関するべきだと思いませんか？	1,524 (58.7)	1,219* (62.9)	305* (46.4)	1,254* (79.2)	671* (81.5)	130* (81.8)	795* (82.3)	152* (53.9)	646* (45.8)
2) 大学構内には煙草の自販機は置くべきではないと思いませんか？	1,231 (47.4)	870* (44.9)	361* (54.9)	1,215* (76.8)	637* (77.4)	121* (76.1)	160* (17.7)	148* (52.5)	923* (65.5)
3) 20歳未満の未成年者の喫煙は法律で禁止されていることを知っていますか？	2,519 (97.1)	1,869* (96.5)	650* (98.8)	1,382 (87.3)	731 (88.8)	141 (88.7)	870 (96.3)	268 (95.0)	1,380 (97.9)
4) 学校の先生が生徒の前で喫煙したり、親が子どもをそばで喫煙したりするのは、やめるべきだと思いますか？	1,724 (66.4)	1,259* (65.0)	465* (70.7)	1,282* (81.0)	664* (80.7)	124* (78.0)	421* (46.6)	1,891* (67.0)	113* (79.0)
5) 受動喫煙者の肺癌死亡率は、非受動喫煙者の肺癌死亡率の2倍近くになることを知っているか？	1,934 (74.5)	1,431 (73.9)	503 (76.4)	1,406* (88.8)	721* (87.6)	143* (73.9)	671 (74.3)	213 (75.5)	1,050 (74.5)

* () 内は割合(%)を示す。
* 性別、年齢別(18-19歳, 20-21歳, 22-23歳), 喫煙様態別で統計的(カイ2乗検定)に有意(5%)な違いがあることを示す。

表4 喫煙者および断煙者における性別、年齢別の回答 (n=1,185)

喫煙者および断煙者に対する質問	男性 (n=1,056)	女性 (n=129)	18-19歳 (n=654)	20-21歳 (n=430)	22-23歳 (n=86)
1) 喫煙開始年齢は？					
1. 17歳未満：522	478(45.3)*	46(35.7)	35(53.8)	136(31.6)	30(34.9)
2. 17～18歳：317	288(45.3)	29(22.5)	192(29.4)	101(23.5)	22(25.6)
3. 19～20歳：222	195(18.5)	27(20.9)	49(7.5)	146(34.0)	24(27.9)
4. 21～22歳：24	15(1.4)	9(7.0)	4(0.6)	11(2.6)	6(7.0)
2) 喫煙の動機は？					
1. 肉親が吸うから：96	91(8.6)	5(3.9)	64(9.8)	24(5.6)	8(9.3)
2. 友人先輩が吸うから：303	274(25.9)	29(22.5)	172(26.3)	109(25.3)	18(20.9)
3. 格好が良いと思ったから：69	68(6.4)	1(0.8)	26(4.0)	34(7.9)	9(10.5)
4. 一人前の大人としてみられた かったから：7	7(0.0)	0(0.0)	4(0.6)	2(0.5)	1(1.2)
5. ただ何となく：592	527(49.9)	65(50.4)	323(49.4)	216(50.2)	44(51.2)
3) 喫煙開始時における喫煙の健康に与える害に対する知識について					
1. 喫煙の害をまったく知らな かった：88	81(7.7)	7(5.4)	55(8.4)	25(5.8)	7(8.1)
2. 知ってはいたが、吸い過ぎな ければ大丈夫と思った：637	577(54.6)	60(46.5)	363(55.5)	228(53.0)	38(44.2)
3. 自分は若くて健康なので関係 ないと思った：132	121(11.5)	11(8.5)	63(9.6)	58(13.5)	11(12.8)
4. 大勢の人が吸っているので害 なんて嘘だろうと思った：33	29(2.7)	4(3.1)	21(3.2)	7(1.6)	4(4.7)
5. 気分を落ち着け、頭脳を爽や かにするものだと思った： 146	130(12.3)	16(12.4)	79(12.1)	51(11.9)	13(15.1)
4) 1日の喫煙量					
0. 0本：1	0(0.0)	1(0.8)	1(0.2)	0(0.0)	0(0.0)
1. 5本以内：270	221(20.9)	49(38.0)	170(26.0)	85(19.8)	13(15.1)
2. 6～10本：276	247(23.4)	29(22.5)	160(24.5)	94(21.9)	20(23.3)
3. 11～20本：397	375(35.5)	22(17.1)	203(31.0)	155(36.0)	35(40.7)
4. 21～40本：100	97(9.2)	3(2.3)	46(7.0)	40(9.3)	10(11.6)
5. 41本以上：20	19(1.8)	1(0.8)	9(1.4)	7(1.6)	4(4.7)

* () 内は割合 (%) を示す。

が吸うから」で2番目に多く、3番目は無記入で9.9%を占めた。

3) 喫煙開始当初の喫煙と健康の知識：最も多かったのは、「多少健康に悪いことは知っていたが吸い過ぎなければ大丈夫と思った」の53.8%で過半数を占めた。また「悪いことを知っていたが若いから関係ないと思った」も11.1%で4番目に多かった。意外に多く3番目であったのが「喫煙はむしろ気分を落ち着け、頭脳を爽やかにすると思った」の12.3%であった。また記入しない者(149人)の割合が12.6%であった。

4) 1日の喫煙本数：1日の喫煙本数は11-20本が最も多く、33.5%を占めた。次いで6-10本が

23.3%で、5本以下が22.8%であった。21本以上が10.1%で、無記入が10.3%であった。

3. 無煙者と断煙者への質問に対する回答 (n=1,691)

表5に示す。

1) 喫煙しない理由：「煙草の臭いが嫌い」というのが最も多く741人(19.9%)であった。

2) 今後とも喫煙する気はないか：1,438人(85.0%)が「はい」と答えた。「いいえ」が133人(7.9%)であった。無記入が120人(7.1%)であった。

3) 喫煙の条件が揃えば喫煙するのか(C-1で「未成年だから」、「お金がないから」と答えた者

表5 断煙者および無煙者における性別、年齢別の回答 (n=1,691)

断煙者および無煙者に対する質問	男性 (n=1,104)	女性 (n=587)	18-19歳 (n=1,089)	20-21歳 (n=500)	22-23歳 (n=84)
1) 喫煙しない理由は何ですか*					
1. 周囲に喫煙者がいない: 180	115(10.4)#	65(11.1)	104(9.6)	62(12.4)	10(11.9)
2. 煙草の匂いが嫌い: 741	437(39.6)	304(51.8)	486(44.6)	213(42.6)	38(45.2)
3. アレルギー体質: 62	43(3.9)	19(3.2)	38(3.5)	22(4.4)	1(1.2)
4. 健康に悪い: 348	236(21.4)	112(19.1)	210(19.3)	110(22.0)	21(25.0)
5. 連れ合いや子の健康に悪い: 140	84(7.6)	56(9.5)	89(8.2)	39(7.8)	9(10.7)
6. 他人に迷惑: 117	84(7.6)	33(5.6)	76(7.0)	32(6.4)	* 8(9.5)
7. お金がない: 78	66(6.0)	12(2.0)	54(5.0)	23(4.6)	1(1.2)
8. 未成年だから: 85	57(5.2)	28(4.8)	82(7.5)	3(0.6)	0(0.0)
2) 今後とも喫煙するつもりはありませんか。					
1. はい: 1,438	913(82.7)	525(89.4)	923(84.8)	421(84.2)	77(91.7)
2. いいえ: 133	101(9.1)	32(5.5)	91(8.4)	38(7.6)	3(3.6)
3) (C1.で7または8の答えの人に尋ねます) 成人になったり経済的に自立したら、喫煙してみようと思っ ていますか。					
1. はい: 31	23(18.7)	8(20.0)	28(20.1)	3(11.5)	0(0.0)
2. いいえ: 108	80(65.0)	28(70.0)	89(65.4)	18(69.2)	1(100.0)

()内は割合(%)を示す。

* 重複回答している。

(163人)に対する質問:「はい」が31人(19.0%), 「いいえ」が108人(66.3%)であった。無記入が24人(14.7%)であった。

IV 考 察

1. 全員に対する質問

1) 一般的事項に関する質問に対する回答

(1) 喫煙の有無: 喫煙者が34.8%という割合は著者が日常的に目にして感じていたよりは低かったが、アンケートを提出しなかった学生のなかに喫煙者が多数含まれているとも考えられる。

(2) 家族の喫煙状況と喫煙との関係: 「家族の中にまったく喫煙者のいない」学生数は788人で、本人が喫煙する喫煙学生数は216人(27.4%)であり、「家族のなかの誰かが喫煙する」学生数は1,807人で、本人も喫煙する喫煙学生数は687人(38.0%)であるから、家族のなかの誰かが喫煙することは本人の喫煙になんらかの影響を与えていると考えられる。

2) 喫煙と健康に関する質問に対する回答

(1) ニコチンの依存性: 知っている者の割合は91.3%で高率であった。

(2) タールの発癌性: 知っている者の割合はニコチンの依存性を知る者よりも少なかった

(86.2%)。これはおそらく若年者であるので癌の心配をしていないこと、煙草の発癌性を知っている、それがタールと結びついていないことによるものと思われる。

(3) 呼吸器系消化器系への影響: 喫煙者での知っている者の割合が93.6%と最も高く、若い喫煙者も呼吸器系への影響を気にしながら吸っていることがうかがえる。

(4) 長期の喫煙と肺気腫: 肺気腫はほとんどの場合喫煙者に発生するとされる¹¹⁾。長期の喫煙が肺気腫を起こすことについては80.1%が知っていた。しかも喫煙の様態別では無煙者よりも断煙者、断煙者よりも喫煙者において知っている者の割合が高かった。

(5) 長期の喫煙と循環器系の障害: 病気について質問した項目の中では最も知られていなかった。しかも、この場合も知っている学生の割合は無煙者、断煙者、喫煙者の順に高かった。

(6) 女性における喫煙の有害性: 知っているのは男性よりも女性の方が多かった。喫煙の健康に及ぼす影響について基本的に男女の差はないが、女性の場合は妊娠・出産という重要な機能を持っていること、また長期の喫煙で女性独自の高い声が失われるなどに対する配慮が働いたものと思わ

れる。

また、喫煙者に知る者の割合が高く、関心があることがうかがえた。

(7) 喫煙率を下げるべきか：回答者の80.6%が「はい」と答えた。しかし喫煙者の賛成は66.3%、断煙者の賛成は83.0%、無煙者の賛成は89.2%であった。

(8) 国民に害を知らせるべきか：賛成は88.4%と高率であった。

3) 喫煙と大学(社会)生活に関する質問に対する回答

(1) 喫煙するしないは、個人の判断にまかせるべきか：無煙者の45.8%が賛成であるのに対し、喫煙者の80.3%、断煙者の54.1%が賛成であった。18-19歳にくらべ、20-21歳と22-23歳の賛成が多いが、年齢とともに自立的な考え方をするようになったとも考えられる。

(2) 大学構内から煙草の自販機を撤去すべきか：喫煙の様態別で意見が大きく分かれた問いかけであった。しかし、喫煙者においても賛成が17.7%であった。これは、喫煙者はできればやめたいと思っていて、入手の機会を減らしてほしい、という思いの表れとも考えられる。

(3) 20歳未満の未成年者の喫煙は法律で禁止されていることを知っているか：97.1%の高率で知っていた。

(4) 先生や親は生徒や子供のそばで喫煙すべきでないか：喫煙者においても46.6%が賛成した。

(5) 無煙者である妻の肺癌発生率は、夫が喫煙者の場合は夫が無煙者の場合より2倍近く高くなることを知っているか：この質問に対してはA-2、A-3項目の他の質問に比べて記入しない者(35人)の割合が1.3%と最も高く、質問の内容が理解しにくかったことがうかがわれる。

2. 喫煙者と断煙者への質問に対する回答

1) 喫煙開始年齢：19歳と20歳を区別しなかったのは1999年度に行った教職員に対する調査と同じ年齢区分を使用したためである。しかし「21歳迄で喫煙」が全回答者のほぼ90%を占めており、喫煙者のほとんどが未成年で喫煙を始めている。

2) 喫煙の動機：喫煙はほとんどの場合、積極的な理由はなく、ただ何となく、始められている。喫煙のきっかけはそれに対するイメージによって左右されることを示唆するから、喫煙開始時

(17歳以前)に負のイメージを与えれば、喫煙に至らない可能性がある。逆にこの時に正のイメージを与えれば喫煙に至る可能性が高いと考えられる。しかし、友人先輩や肉親が吸う、という場合も多く、周囲の影響も十分あることを示している。無記入については、「ただ何となく」とも表現できない、動機ともいえない理由から、が含まれているように思われる。

3) 喫煙開始当初の喫煙と健康の認識：「吸い過ぎなければ大丈夫だろう」というのが多数の意識であることがうかがえる。そして、そこではニコチンの依存性についての認識は希薄で、止めたくなっても止められなくなる、という事態に陥ることは考えてないように思われる。無記入については、回答者の意見に合致した項目がなかったという可能性もあるが、喫煙の負の面について触れたくないという心理が働いたのではないかと思われる。

4) 一日の喫煙本数：11-20本の場合が最も多かったが、著者が日常的に感じる程度と合致する。無記入については、その日によって変動するため特定しにくく、答えにくかった場合が含まれるのではないかと考えられる。

3. 無煙者と断煙者への質問に対する回答

1) 喫煙しない理由：「健康に悪い」よりも、「煙草の臭いが嫌い」のほうが多数であることが分かった。また、「周囲に喫煙者がいない」というのも一つの要因であることを確認した。

2) 今後とも喫煙する気はないか：「はい」が1,438人(85.0%)で多数であった。無記入については、将来のことについては分からないと考えたのではないかと思われる。

3) 喫煙の条件が揃えば喫煙するのか：C-2、C-3の回答を考慮すると、非喫煙者の多くが条件が揃っても喫煙しないという意志を示したものと考えられる。無記入については、喫煙できる状況になったらどうするのが今は予想できない、ということであろう。将来のことについて答えることが困難な質問は控えたほうが良いと考えられる。

V 結 言

1. 喫煙した者の44.0%が17歳までに喫煙を開始していた。

2. 無煙者は喫煙者にくらべ、喫煙について批

判的であり、断煙者の態度は両者の中間に位置した。

3. 吸い始めるきっかけには、ただなんとなく、がもっとも多かったが、友人先輩が吸う、がこれに続いた。また、家族のなかの誰かが喫煙することが本人の喫煙になんらかの影響を与えていると考えられることから、周囲の影響もあると考えられる。

4. 喫煙者は、日本の喫煙率を下げるべき(66.3%)、喫煙の人体への影響を国民に知らせるべき(82.1%)、学内の煙草の自動販売機の撤去(17.7%)に賛意を示した。

5. 喫煙者は「吸い過ぎなければ大丈夫だろう」という意識を持ちつつ、法律面ならびに健康面でよくないということを知り、気にしながら吸い続け、そしてできれば喫煙はやめたい、やめるべきだ、と考えていることがうかがえた。

6. 無回答が多いことから、長文を読むことさえ面倒に感じるという学生の資質の問題が浮かび上がる。こういった調査の場合には、あまり長文ならびに理解が困難な質問は適当ではない、ということも考慮にいれなければならないと考えられる。

本調査は姫路獨協大学健康管理室(室長山鳥 崇教授)において計画され実施されたものである。著者は計画の段階からかわり、調査結果の統計的な分析を担当した。

(受付 2001. 9. 3)
採用 2002. 3.21)

文 献

- 1) 小川 浩, 富永祐民. 中学生の喫煙—喫煙情況と関連要因—. 日本公衆衛生誌 1985; 32: 305-314
- 2) 寺尾敦史, 中学生の喫煙行動調査および調査結果を用いて実施した喫煙防止教育, 日本公衆衛生誌 1985; 46: 487-497
- 3) 川畑徹朗, 中村正和, 大島 明, 他. 青少年の喫煙・飲酒行動—Japan Know Your Body Studyの結果より—. 日本公衆衛生誌 1991; 38: 885-899
- 4) 尾崎米厚, 箕輪真澄. わが国中・高校生の喫煙実態に関する全国調査(第1報)中・高校生の喫煙率. 日本公衆衛生誌 1993; 40: 39-47
- 5) 尾崎米厚, 箕輪真澄. わが国中・高校生の喫煙実態に関する全国調査(第2報)生徒の喫煙に関する要因. 日本公衆衛生誌 1993; 40: 959-968
- 6) 渡邊正樹, 岡島佳樹, 高橋浩之, 他. 7年間の追跡調査に基づく青少年の喫煙行動予測モデル. 日本公衆衛生誌 1995; 42: 8-18
- 7) 箕輪真澄. 未成年における喫煙防止の重要性. 日本公衆衛生誌 1995; 42: 361-365.
- 8) 西岡伸紀, 川畑徹朗, 皆川興栄, 他. 小学校高学年を対象とした喫煙防止教育の短期的効果: 準実験デザインによる2年間の介入研究. 日本公衆衛生誌 1996; 43: 434-445
- 9) 邨瀬利花, 藤岡正信, 加藤昌弘. 保健所における禁煙・喫煙防止指導: 高校生に対する禁煙・防煙教室の取り組みを通して. 日本公衆衛生誌 2000; 47: 153-161
- 10) 日本公衆衛生学会. 「たばこのない社会」の実現に向けて. 日本公衛誌 2000; 47: 844
- 11) 伊佐山芳郎. 現代たばこ戦争. 東京: 岩波書店 1999

A SURVEY OF SMOKING BEHAVIOR AMONG STUDENTS OF HIMEJI-DOKKYO UNIVERSITY

Masaya MIYAI*

Key words : Smoking behavior, University student, Questionnaire survey

Purpose In 2000, a survey of smoking behavior among students of Himeji-Dokkyo University was conducted in order to provide a basis for no smoking movements in the university.

Method Anonymous questionnaires were distributed to students and then gathered it. The analysis examined the relationships among sex and age and the smoking status (smoker, previous smoker, non smoker).

Results Of the smokers, 44.0% started before the age of seventeen years. Non-smokers were more critical of smoking than smokers, with previous smokers occupying an intermediate position. No clear reasons were given for starting smoking although the behaviour of elder students was of importance. Smokers thought that it was desirable to reduce the smoking rate in Japan and that information should be available regarding effects on the body. A small proportion also were in favour of banning cigarette vending machines.

Conclusions Most answer to the question about starting his/her smoking were no positive reason. However, the effect of circumstances is important, because smoking of friends, senior students and family members had a strong influence. It was suggested that many smoking students know smoking is not good for their health, and would like to quit.

* Department of Econoinformatica, Himeji-Dokkyo University

付録 質問および回答表 (2000年4月)

姫路独協大学健康管理室

A. 全員に尋ねます。

1. 一般的事項

1) あなたの性別は?

1. 男 2. 女

2) あなたの年齢は?

1. 18~19歳 2. 20~21歳 3. 22~23歳 4. 24~25歳 5. 26~30歳

3) あなたの所属は?

1. 外国語学部 2. 法学部 3. 経済情報学部 4. 大学院 5. その他

4) 喫煙の有無は?

1. する 2. したことがあるがやめた 3. しない

5) 家族の喫煙状況は?(複数回答も可)

1. 父母がする 2. 兄姉がする 3. 祖父母がする 4. その他がする 5. 誰もしない

2. 喫煙と健康の関係について

1) 煙草に含まれているニコチンは、依存性(習慣性)をもたらす麻薬作用のあることを知っていますか?

1. はい 2. いいえ

2) 煙草が燃えて出来るタールには発癌性の物質が含まれることを知っていますか?

1. はい 2. いいえ

3) 長期間(数十年)の喫煙には呼吸器系や消化器系の癌になる危険性のあることを知っていますか?

1. はい 2. いいえ

付録 質問および回答表 (2000年4月) (つづき)

姫路独協大学健康管理室

- 4) 長期間 (数十年) の喫煙には肺気腫になる危険性のあることを知っていますか? 1. はい 2. いいえ
- 5) 長期間 (数十年) の喫煙には狭心症や動脈瘤のような循環器系の病気になる危険性のあることを知っていますか? 1. はい 2. いいえ
- 6) 女性が煙草を吸うとガラガラ声になること、妊婦が吸うと流産や低体重児出産の率が高くなることを知っていますか? 1. はい 2. いいえ
- 7) 喫煙率は日本で高くなっています (米英の喫煙率28%, 日本の喫煙率52%)。喫煙率をもっと下げるべきだと思いますか? 1. はい 2. いいえ
- 8) 喫煙の人体に与える影響について、国や有識者は国民にもっと詳しいことを知らせるべきだと思いますか? 1. はい 2. いいえ
3. 喫煙と大学 (社会) 生活について
- 1) 大学構内 (校舎内は現行通り) をでは全面的に禁煙にし、喫煙所を設けてそこでのみ吸わせるべきだと思いますか? 1. はい 2. いいえ
- 2) 大学の校舎内でも全面禁煙にし、喫煙は各階ごとに喫煙所を設けて、そこでのみさせるべきだと思いますか? 1. はい 2. いいえ
- 3) 全面禁煙は講義室、事務室、食堂、便所などに限り、その他の場所では喫煙所で吸わせるべきだ (現行通り) と思いますか? 1. はい 2. いいえ
- 4) あまり禁煙禁煙と言わず、全ての構成員に対し、喫煙は個人の判断にまかせ、喫煙に関する必要な情報のみを与えるべきだと思いますか? 1. はい 2. いいえ
- 5) 大学構内には煙草の自販機は置くべきではないと思いますか? 1. はい 2. いいえ
- 6) 20歳未満の未成年の喫煙は法律で禁止されていることを知っていますか? 1. はい 2. いいえ
- 7) 学校の先生が生徒の前で喫煙したり、親が子供のそばで喫煙したりするのは、やめるべきだと思いますか? 1. はい 2. いいえ
- 8) 受動喫煙者 (夫が喫煙者である喫煙しない妻) の肺癌死亡率は、非受動喫煙者 (夫が非喫煙者の喫煙しない妻) の肺癌死亡率の2倍近く (夫の喫煙の程度によって違うが) になることを知っているか? 1. はい 2. いいえ
- B. 喫煙すると答えた人およびしたことがあると答えた人のみに尋ねます。
- 1) 喫煙開始年齢は?
1. 17歳未満 2. 17~18歳 3. 19~20歳 4. 21~22歳 5. 23~24歳
- 2) 喫煙の動機は?
1. 肉親が吸うから 2. 友人先輩が吸うから 3. 格好が良いと思ったから
4. 一人前の大人として見られれたかったから 5. ただ何となく
- 3) 喫煙開始時における喫煙の健康に与える害に対する知識について
1. 喫煙の害を全く知らなかった
2. 多少知ってはいたが、吸い過ぎなければ大丈夫と思った
3. 知っていたが、自分は若くて健康なので関係ないと思った
4. 知っていたが、大勢の人が吸っているので害なんて嘘だろうと思った
5. 喫煙はむしろ気分を落ち着け、頭脳を爽やかにするものだった
- 4) 1日の喫煙量
1. 5本以内 2. 6~10本 3. 11~20本 4. 21~40本
- C. 喫煙しないと答えた人およびやめたと答えた人へのみに尋ねます。
- 1) 喫煙しない理由は何ですか?
1. 周囲に喫煙者がいない 2. 煙草の匂いが嫌い 3. アレルギー体質 4. 健康に悪い
5. 連れ合いや子の健康に悪い 6. 他人に迷惑 7. お金がない 8. 未成年だから
- 2) 今後とも喫煙するつもりはありませんか。 1. はい 2. いいえ
- 3) (C.1で7.または8.の答えの人に尋ねます) 成人になったり経済的に自立したら、喫煙してみようと思っていますか。 1. はい 2. いいえ
- D. 喫煙する人もしない人も、何か言うことがあれば手短かに書いて下さい。

以上です。大変ありがとうございました。